

キャンパスライフ健康支援センター年報

令和2年度

徳島大学キャンパスライフ健康支援センター

キャンパスライフ健康支援センター年報

目次

巻頭言	3
センター長 井崎ゆみ子	
I.保健管理部門	
1. 診療・健康相談日程表	4
2. 学生定期健康診断	5
(1) 学生定期健康診断の概要	
(2) 令和2年度受診状況	
(3) 歯科検診受診状況	
(4) 令和2年度事後措置件数および経過観察件数	
3. 学生特別健康診断	12
令和2年度受診状況（放射線業務従事者）	
4. 職員定期健康診断（事後措置）	13
令和2年度事後措置件数	
5. 職員特殊健康診断	14
令和2年度受診状況	
6. 職員特定保健指導	15
特定保健指導の概要と令和2年度実施状況	
7. 感染症対策	17
①B型肝炎予防対策（学生）	
②インフルエンザワクチン接種状況	
8. 学内行事での救護活動	18
令和2年度の救護活動	
9. 産業保健活動	19
産業保健活動の概要	
10. 常三島地区利用状況	20
(1) 学生の学部別利用状況	
(2) 学生の月別利用状況	
(3) 職員の利用状況	

1 1. 蔵本地区利用状況	23
(1) 学生の学部別利用状況	
(2) 学生の月別利用状況	
(3) 職員の利用状況	
1 2. 学生メンタルヘルス関連	25
(1) こころの相談室受診状況	
(2) 新入生メンタルヘルス健診実施状況	
1 3. 新型コロナ感染症相談対応	28
1 4. 学生健康診断証明書発行状況	32
1 5. 令和2年度年間主要行事	33
Ⅱ.総合相談部門	
1. 利用状況	34
(1) 学生相談利用状況	
(2) 職員相談利用状況	
2. 活動報告	36
令和2年度活動報告	
Ⅲ.アクセシビリティ支援部門	
1. 利用状況	38
(1) 学生相談利用状況	
(2) 支援学生の育成	
2. 活動報告	40
令和2年度活動報告	
Ⅳ.キャンパスライフ健康支援センター活動報告	41
巻末言	42
総合相談部門長 佐藤健二	

巻頭言

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症という未知の感染症に対する不安や混乱から始まり、次第に公衆衛生的な感染予防の対処法や、ワクチンの開発を始め、医学的な診断・治療に関する知見や経験が蓄積していく過程の中で、キャンパスにも大きな影響があった 1 年でした。そして、現在も未だその影響は続いています。

これまで当たり前であった移動や皆で集まることが困難になり、オンラインでの活動が中心となり、また不可欠なものとなりました。

そのような状況の中、キャンパスライフ健康支援センターが担っている保健管理業務や診療業務、相談業務のうち、対面でしか行い得ないものについては工夫を凝らして感染対策をして実施し、オンラインを活用できることに関しては積極的に活用することを試みてきました。

保健管理部門は混雑が当たり前だった各種健康診断や各種ワクチン接種の予約制導入、感染対策と受診機会の確保を両立するための健診の各種接種のための時間枠の拡張等に取り組み、アクセシビリティ支援室は一早くオンラインによる相談を取り入れ、4 月 5 月の入構制限の厳しい中でも支援ニーズをこぼさず対処し、総合相談室も増加する学生相談に丁寧に対面で対応しつつ、希望者にはオンラインでの相談を実施、また、グループ活動もオンラインで試みるなどに取り組んでいます。

このコロナ禍でのキャンパスライフ健康支援センターの実践が、より良い学生・教職員の心身の健康支援、修学支援に繋がることを願っています。

令和 3 年 9 月
センター長 井崎ゆみ子

I.保健管理部門

1. 診療・健康相談日程表

常三島地区、蔵本地区ともに8時30分から17時15分までオープンしている。

常三島地区

	月	火	水	木	金	
内科		○		○		木曜は隔週
メンタルヘルス	○	○			○	予約制、月曜は午後のみ
健康相談	○	○	○	○	○	
外傷処置	○	○	○	○	○	

担当スタッフ

井崎 ゆみ子 (医師、メンタルヘルス担当)
曾我部 正弘 (医師、内科担当 R3.3～)
浜田 知子 (医師、内科担当 R1.10～R3.2)
小山 壱也 (医師、内科担当 病院特任助教 R2.11～)
早濑 純子 (保健師)
西尾 よしみ (看護師)
武田 早苗 (臨床検査技師)
尾崎 理恵 (看護師、R2.4～)

蔵本地区

	月	火	水	木	金	
内科				○		木曜は隔週
メンタルヘルス			○		○	水・金とも午後のみ
健康相談	○	○	○	○	○	
外傷処置	○	○	○	○	○	

内科はR1.5～6、木曜午後のみ

担当スタッフ

井崎 ゆみ子 (医師、メンタルヘルス担当)
曾我部 正弘 (医師、内科担当 R3.3～)
小山 壱也 (医師、内科担当 病院特任助教 R2.11～)
枝川 令音 (医師、メンタルヘルス担当 病院特任助教 R2.4～)
横山 小百合 (看護師)

2. 学生定期健康診断

(1) 学生定期健康診断の概要

【実施項目】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	M1	M2	D1	D2	D3	D4
身長・体重	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
血圧	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
尿検査	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
問診票提出	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
内科診察	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
胸部X線間接撮影	●	◎	○	▲	▲	▲						
精神健康調査	●											

●印は全員該当 ○印は栄養学科・保健学科のみ

◎印は総合科学部「介護体験」実習生

▲印は医学科・薬学部

△印は追加健診対象者のみ

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策下での実施のため、全学生への実施項目としては尿検査と問診とし、尿検査については自宅で採尿した早朝尿の提出、問診は問診票の提出とした。この2つの検査で異常所見のあった者に対して、身体計測、血圧測定、内科診察を追加健診の方式で実施した。また、胸部X線撮影に関しても対象を絞り、学部新入生と、医療介護系実習参加者に対して実施した。

【実施時期と体制】

実施時期は学部新入生では4月初旬の8日間を「尿」「問診票」の提出期間とし、新入生以外では6月初旬の10日間とした。以上の健診で異常が見られた者への追加健診は7月に10日間予約制で追加健診を実施した。「胸部X線撮影」は実習先への提出義務がある臨床実習、介護実習参加者に対し4月～9月で16日間実施、学部新入生に対しては10月～3月で16日間実施した。例年実施期間は17日間であったため、日数は大幅に増加となっている。また秋季入学生対象の健康診断は12月上旬に常三島地区で1日実施した。

春季定期健診については保健管理部門全スタッフと臨時看護スタッフ2名及び1日当たり学務・学部等の事務職スタッフ2～4名で実施し、追加健診では病院医師1日1名の協力を得て実施した。

【実施結果の概要】

令和2年度の定期健康診断の全体の受診率は67.5%で、令和元年度の70.0%から減少している。内訳は、学部生全体の受診率は70.8%で元年度の75.4%より減少、大学院（前期）生の受診率は前年度71.6%から72.0%と変化はなかった。

秋入学生健康診断の受診率は留学生で100%、日本人で10%と、留学生で前年度73.1%より

上昇した。日本人対象者は85%以上が社会人入学生であり、すでに別途健診を受診していることが受診率の低さと関係していると思われる。同様のことが春の定期健康診断の大学院生（後期）にも言え、健診受診率は20.9%となっている。

(2) 学生定期健康診断受診状況

定期健康診断（春季）

令和2年度

〈学部生〉

学部		数	学年						計
			1	2	3	4	5	6	
総合科学部		学生数	176	188	191	213			768
		受診数	153	112	82	87			434
		%	86.9	59.6	42.9	40.8			56.5
医学部		学生数	310	312	303	298	120	108	1451
		受診数	293	271	266	253	94	104	1281
		%	94.5	86.9	87.8	84.9	78.3	96.3	88.3
歯学部		学生数	58	53	61	51	43	40	306
		受診数	46	44	46	42	40	28	246
		%	79.3	83.0	75.4	82.4	93.0	70.0	80.4
薬学部		学生数	86	91	80	80	44	44	425
		受診数	79	63	39	51	13	39	284
		%	91.9	69.2	48.8	63.8	29.5	88.6	66.8
工学部	昼間	学生数	0	5	19	35			59
		受診数	0	0	2	17			19
		%	0.0	0.0	10.5	48.6			32.2
	夜間主	学生数	0	0	4	11			15
		受診数	0	0	0	3			3
		%	0.0	0.0	0.0	27.3			20.0
理工学部	昼間	学生数	587	592	604	575			2358
		受診数	527	363	289	375			1554
		%	89.8	61.3	47.8	65.2			65.9
	夜間主	学生数	54	49	49	47			199
		受診数	43	24	19	31			117
		%	79.6	49.0	38.8	66.0			58.8
生物資源産業学部		学生数	101	111	98	103			413
		受診数	86	73	72	75			306
		%	85.1	65.8	73.5	72.8			74.1
計		学生数	1372	1401	1409	1413	207	192	5994
		受診数	1227	950	815	934	147	171	4244
		%	89.4	67.8	57.8	66.1	71.0	89.1	70.8
参)令和元年度		%	94.6	63.6	61.5	77.7	90.2	93.1	75.4

〈大学院生：博士前期課程及び修士課程〉

学部	数	学年		
		1	2	計
総合科学教育部	学生数	0	42	42
	受診数	0	23	23
	%	0.0	54.8	54.8
医科学教育部 (修士課程)	学生数	6	8	14
	受診数	2	0	2
	%	33.3	0.0	14.3
栄養生命科学教育部	学生数	24	26	50
	受診数	23	22	45
	%	95.8	84.6	90.0
保健科学教育部	学生数	25	34	59
	受診数	22	17	39
	%	88.0	50.0	66.1
口腔科学教育部 口腔保健学専攻	学生数	2	8	10
	受診数	2	3	5
	%	100	37.5	50.0
薬科学教育部 創薬科学専攻	学生数	42	35	77
	受診数	27	21	48
	%	64.3	60.0	62.3
先端技術科学教育部	学生数	10	326	336
	受診数	4	256	260
	%	40.0	78.5	77.4
創成科学研究科	学生数	378		378
	受診数	274		274
	%	72.5		72.5
計	学生数	487	479	966
	受診数	354	342	696
	%	72.7	71.4	72.0

参)令和元年度	%	67.7	75.1	71.6
---------	---	------	------	------

〈大学院生：博士後期課程及び博士課程〉

学部	数	学年				
		1	2	3	4	計
総合科学教育部	学生数	5	4	3		12
	受診数	3	1	0		4
	%	60.0	25.0	0.0		33.3
医科学教育部 (博士課程)	学生数	31	42	33	115	221
	受診数	4	1	0	2	7
	%	12.9	2.4	0.0	1.7	3.2
栄養生命科学教育部	学生数	9	11	12		32
	受診数	4	4	1		9
	%	44.4	36.4	8.3		28.1
保健科学教育部	学生数	4	8	16		28
	受診数	2	3	0		5
	%	50.0	37.5	0.0		17.9
口腔科学教育部 口腔科学専攻 (博士課程)	学生数	9	11	19	21	60
	受診数	9	8	12	7	36
	%	100.0	72.7	63.2	33.3	60.0
口腔科学教育部 口腔保健学専攻	学生数	1	3	5		9
	受診数	0	0	0		0
	%	0.0	0.0	0.0		0.0
薬科学教育部 創薬科学専攻	学生数	11	9	20		40
	受診数	6	2	8		16
	%	54.5	22.2	40.0		40.0
薬科学教育部薬学専攻 (博士課程)	学生数	1	1	4	2	8
	受診数	0	0	2	0	2
	%	0.0	0.0	50.0	0.0	25.0
先端技術科学教育部	学生数	26	32	54		112
	受診数	8	9	13		30
	%	30.8	28.1	24.1		26.8
計	学生数	97	121	166	138	522
	受診数	36	28	36	9	109
	%	37.1	23.1	21.7	6.5	20.9
参)令和元年度	%	32.5	21.4	14.4	10.4	19.2

秋季入学生健康診断

令和2年度

学部	数	留学生	日本人	合計
総合科学部 総合科学教育部	学生数			0
	受診数			0
	%			0.0
医学部 栄養生命科学教育部 医科学教育部	学生数	2	10	12
	受診数	2	0	2
	%	100.0	0.0	16.7
歯学部 口腔科学教育部	学生数	1	3	4
	受診数	1	0	1
	%	100.0	0.0	25.0
薬学部 薬科学教育部	学生数		2	2
	受診数		0	0
	%		0.0	0.0
先端技術科学教育部	学生数	1	3	4
	受診数	1	1	2
	%	100.0	33.3	50.0
理工学部	学生数	1		1
	受診数	1		1
	%	100.0		100.0
生物資源産業学部	学生数			0
	受診数			0
	%			0.0
創成科学研究科	学生数	5	2	7
	受診数	5	1	6
	%	100.0	50.0	85.7
高等教育研究 センター	学生数	7		7
	受診数	7		7
	%	100.0		100.0
合計	学生数	17	20	37
	受診数	17	2	19
	%	100.0	10.0	51.4

日本人対象者 20 名中、14 名は社会人入学。

その内 4 名は当大学職員定期健康診断受診済。

(3) 歯科検診受診状況

平成 19 年度より学生定期健康時実施時に、予防歯科の伊藤先生のご協力を得て実施してきた歯科検診であるが、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症対策として、対面式である歯科検診は実施しなかった。

(4) 定期健康診断後事後指導および経過観察件数

健診結果を受け、7 月に追加健診および事後指導、2 月に経過観察を行った。

健診後、尿検査で蛋白 1+以上、潜血 1+以上、糖土以上のいずれかに該当する場合、再検査を呼びかけている。追加健診対象者の受診率は令和元年度の事後指導受診率 56%よりやや低い 51.9%であった。事後指導の未受診者には、平成 27 年度から文書を送付し指導を行っているため、令和 2 年度の追加健診未受診者も同じく文書を送付した。

* 追加健診及び事後指導の対象基準

①尿検査

蛋白	(+) 以上
潜血	(+) 以上
糖	(+-) 以上

②問診

症状から	意識消失発作
	呼吸困難
	胸痛
	動悸・息切れ
	慢性疲労+体重減少
	3症状以上
異常指摘既往から	心雑音
	不整脈
	心電図異常
	甲状腺腫大

③XP

問診より

症状から	咳・痰 (1か月以上) 続く
異常指摘既往から	胸部レントゲン異常があった

*経過観察の対象基準

		経過観察
血圧	最高	160 ≤
	最低	90 ≤
尿	蛋白	1+ ≤
	潜血	2+ ≤
	尿糖	1+ ≤

令和2年度

再検査

学部	尿再検査				
	受診数	有所見数	%	再検数	%
総合科学部	471	10	2.1	10	2.1
医学部	1378	31	2.2	25	1.8
歯学部	293	5	1.7	3	1.0
薬学部	363	9	2.5	7	1.9
工学部	538	0	0.0	0	0.0
理工学部	1673	27	1.6	20	1.2
生物資源産業学部	347	5	1.4	4	1.2
計	5063	87	1.7	69	1.4

追加健診

学部	対象者数	呼出数	%	受診数	%	尿		問診		胸部レントゲン	
						対象者数	受診数	対象者数	受診数	対象者数	受診数
総合科学部	477	53	11.1	33	62.3	14	5	39	26	0	0
医学部	1388	124	8.9	61	49.2	37	13	87	54	4	4
歯学部	287	40	13.9	16	40.0	7	2	31	13	3	1
薬学部	350	43	12.3	27	62.8	10	4	30	23	3	1
工学部	312	41	13.1	27	65.9	4	2	34	23	4	3
理工学部	1895	127	6.7	62	48.8	33	11	102	59	2	2
生物資源産業学部	340	27	7.9	14	51.9	4	0	23	13	1	0
計	5049	455	9.0	240	52.7	109	37	346	211	17	11

経過観察

学部	血圧		尿	
	対象者数	受診数	対象者数	受診数
総合科学部	4	3	2	1
医学部	4	1	12	0
歯学部	2	2	3	1
薬学部	4	2	3	3
工学部	4	0	0	0
理工学部	10	3	21	7
生物資源産業学部	1	0	1	0
計	29	11	42	12

3. 学生特別健康診断

放射線取扱者の健診を新規取扱者は6月と11月の年2回、更新者は9月と2月の年2回行っている。健診受診者数においてはこの4年間、約1600名となっており、26~28年度の約2000名と比べると少ない。また令和2年度はコロナ禍の影響で、学内駅伝大会は中止となったため、心電図検査等の出場者健診も実施しなかった。

学部	令和2年度		計
	放射線 取扱い者	徳島大学 駅伝大会 出場者	
総合科学部	3		3
医学部	1078		1078
歯学部	16		16
薬学部	183		183
工学部	0		0
理工学部	340		340
生物資源産業学部	34		34
計	1654	0	1654

4. 職員定期健康診断（事後措置）

職員定期健康診断は、例年外注で6月に実施されているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染予防のため、12月に変更となった。定期健康診断実施後の事後措置は当保健管理部門が担当しており、令和2年度は昨年度同様に、事後措置として対象者に対して文書および電話にて受診勧奨を行った。

がん検診については、大腸がん、肺がんにおいては、健診受診者の精密検査の要否判定を行っている。（なお、表においては「大腸がん・受診者」は健診受診者数を表し、「肺がん・精密受診者」は精密検査要と判定した者のうち精密検査受診者数を表している。）大腸がん健診の受診者数は28年度まで3年漸増傾向であったが、この4年間はそれぞれ横ばいである。

*職員定期健康診断事後指導呼び出し基準

血圧		尿		血液検査								
収縮期	拡張期	蛋白	尿糖	HGB(男)	HGB(女)	血糖	GOT	GPT	γ-GTP	LDL	TG	HbA1c
160 ≤	100 ≤	2+ ≤	2+ ≤	< 11	< 10	200 ≤	100 ≤	100 ≤	200 <	180 ≤	500 ≤	7 ≤

令和2年度

所 属	検査名	血圧	尿	生化学	血球	XP	大腸がん	肺がん
		指導数	指導数	指導数	指導数	指導数	受診数	精密受診数
事務局		12	5	20	1	0	29	6
病院		30	23	83	24	2	44	1
常三島事務部		3	2	1	1	0	6	1
蔵本事務部		0	1	5	0	0	1	0
大学院医歯薬学研究部		25	6	43	3	1	39	7
大学院社会産業理工学研究部		8	10	33	2	0	23	6
学内共同教育研究		15	6	22	2	0	30	4
研究連携推進機構		1	1	6	1	0	2	1
計		94	54	213	34	3	174	26

5. 職員特殊健康診断

放射線取り扱い業務、有機溶剤取り扱い業務、特定化学物質取り扱い業務およびVDT作業の各従事者に対して、年2回の特殊健康診断を実施している。深夜業務従事者健診は、令和2年度に関しては職員定期健康診断の延期に伴い、年1回の実施となった。平成26年度以降は年間3300～3500件で推移していたが、令和2年度は深夜業務健診が年1回となった事で、その分減少を示している。

令和2年度

所 属	健康診断受診数						計
	深夜業務	放射線取り扱い		有機溶剤	特定化学物質	VDT	
		新規	更新				
事務局	0	0	0	0	0	10	10
病院	706	194	947	18	41	48	1954
常三島事務部	0	0	0	0	0	0	0
蔵本事務部	0	0	0	0	0	0	0
大学院医歯薬学研究部	3	21	263	23	45	25	380
大学院社会産業理工学研究部	0	7	133	10	15	10	175
学内共同教育研究	0	6	71	10	24	11	122
研究連携推進機構	0	0	0	0	0	2	2
その他	0	0	0	0	0	0	0
計	709	228	1414	61	125	106	2643

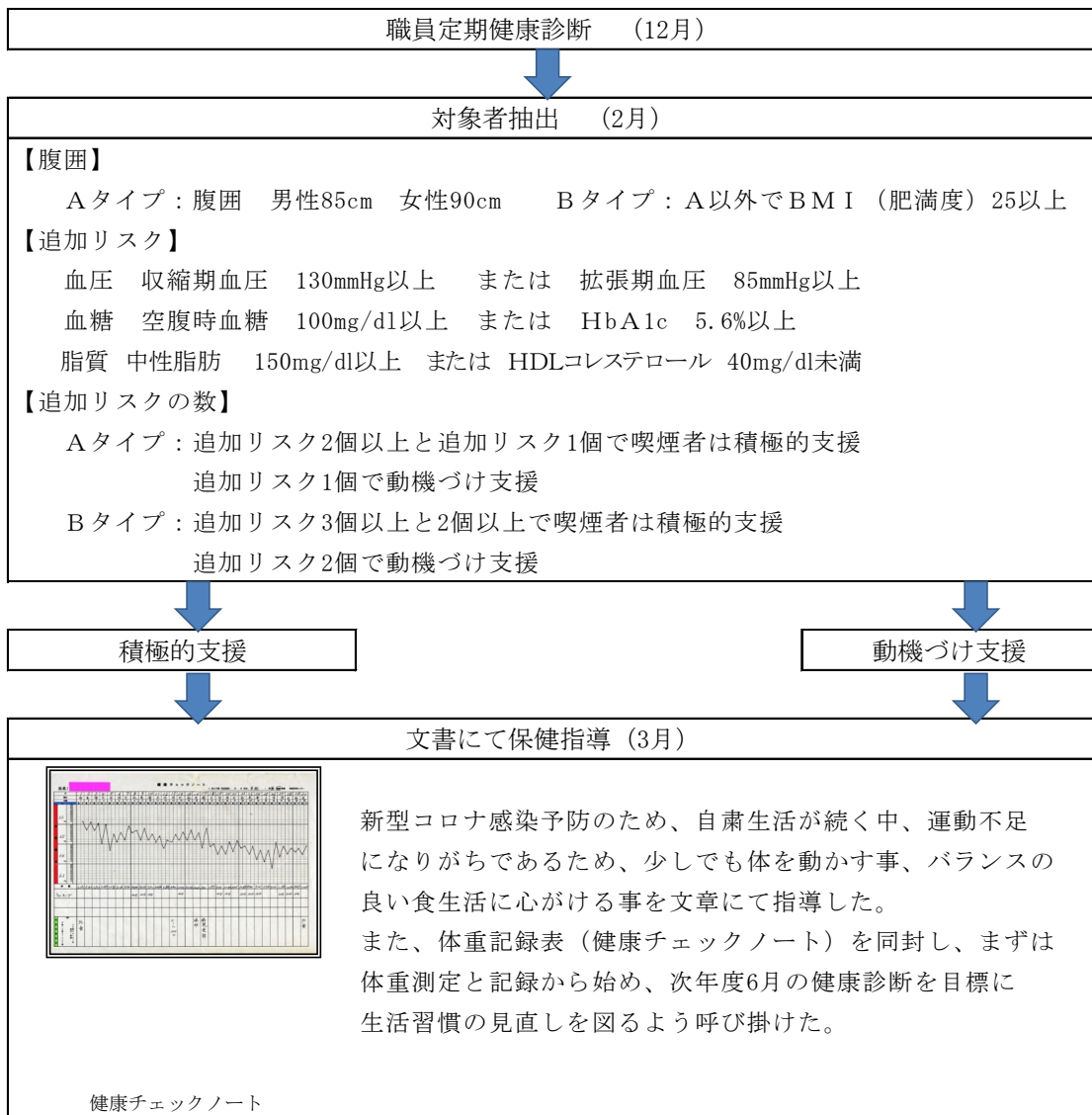
6. 職員特定保健指導

特定保健指導とは

平成20年度より、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目した特定健康診査、特定保健指導が開始となり、当センターでも職員の生活習慣見直しのサポートを開始した。特定保健指導には、リスクの程度に応じて、積極的支援と動機づけ支援があり、よりリスクの高い方が積極的支援となる。

例年6月に職員定期健康診断を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大により12月に変更となったため、保健指導のスケジュール及び、指導の方法も下記のとおり変更した。

支援の方法



令和2年度は、積極的支援の対象者が124名、動機付け支援の対象者が100名であり、過去最高の人数となった。原因としては新型コロナウイルス感染拡大により自粛生活が強いられる中、運動不足、ストレスなどが重なり、いわゆる「コロナ太り」が増加した事が大きいと思われる。高血圧、糖尿病、心臓病等、基礎疾患があり、肥満傾向の人が新型コロナウイルスに感染すると重症化しやすいとの報告もある事から、保健指導により生活習慣改善を図り、肥満を解消する事は非常に重要であると考えた。しかし、新型コロナウイルス感染防止のため、保健指導方法を検討した結果、従来の対面式保健指導から、対象者全員へ生活習慣改善を呼びかける文書を送付する「文書指導」に変更し実施した。

令和2年度
 <積極支援>

地区	対象者	文書指導 (文書送付者)	
	人数	人数	率
常三島・新蔵地区	42	42	100
蔵本地区	82	82	100
合計	124	124	100

<動機付け支援>

地区	対象者	文書指導 (文書送付者)	
	人数	人数	率
常三島・新蔵地区	35	35	100
蔵本地区	65	65	100
合計	100	100	100

7. 感染症対策

学生の感染症対策として、病院内の実習における感染症対策に求められる基準に合わせて、学部学科より実施依頼を受け、HBV 感染症対策として、採血およびワクチン接種を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、当年度の実施を要する学科学年に絞った実施としたため、実施数は例年の約半数となっている。

学部	HBワクチン 接種	HBs抗原 抗体採血・ 抗体採血
総合科学部	30	20
医学部	242	166
歯学部	152	106
薬学部	269	181
工学部	0	0
理工学部	0	0
生物資源産業学部	0	0
計	693	473

また、学生・職員の希望者に対して、インフルエンザの予防接種を実施している。学生・職員の実施数はともに、令和元年度と変化はなかった。

インフルエンザワクチン接種状況

所属		令和2年度
学生	総合科学部	105
	医学部	557
	歯学部	132
	薬学部	194
	工学部	41
	理工学部	144
	生物資源産業学部	69
	小計	1242
職員	事務局	163
	病院	1
	常三島事務部	52
	蔵本事務部	24
	大学院医歯薬学研究部	26
	大学院社会産業理工学研究部	166
	学内共同教育研究	114
	研究連携推進機構	58
	その他	0
	小計	604
合計		1846

8. 学内行事での救護活動

大学や学部等からの依頼により、行事などでの救護に対応している。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため各種イベントが中止となった一方で、例年救護依頼のなかった、大学院入試、編入学入試など入試の救護依頼が加わり、入試関係救護が前年度16件から令和2年度40件と増加している。

<学内>

行事内容		常三島		蔵本	
		日数	救護者	日数	救護者
入試関係	大学入試共通テスト	4	2	/	/
	前期試験	2	3	2	1
	後期試験	1	0	1	0
	推薦入試等	13	0	17	0
イベント	科学体験フェスティバル	/	/	/	/
	大学祭等	/	/	/	/
	オープンキャンパス	/	/	/	/
合計		20	5	20	1

<学外>

行事内容		日数	救護者	場所
大会	徳島大学駅伝大会	/	/	徳島公園
合計		0	0	

9. 産業保健活動

徳島大学の安全衛生管理体制の中で、産業医（常三島地区：井崎）業務と衛生管理者（常三島地区：早淵）業務を行っている。

職場巡視（産業医：常三島）

安全衛生委員会（産業医、衛生管理者：常三島）

衛生管理者巡視（衛生管理者：常三島）

長期休業者職場復帰支援（産業医：常三島・新蔵）令和元年度～
ストレスチェック実施と面接指導

（産業医：常三島・新蔵）令和元年度～

長時間労働者面接指導（産業医：常三島・新蔵）令和元年度～

令和2年度も蔵本地区の面接指導は同地区の産業医が担当したため、保健管理部門の対応件数としては0件となっている。常三島地区での面接指導数は前年度より増加し、新蔵地区では減少している。

面接指導件数

令和2年度

職員所属地区		常三島	蔵本	新蔵	計
面接 指導	長時間労働者	12(7)	0(0)	1(3)	13(10)
	ストレスチェック	5(4)	0(0)	0(3)	5(7)
	計	17(11)	0(0)	1(6)	18(17)

()は令和元年度

10. 常三島地区利用状況

学生の内科系外科系診療に関しては、前年度の426件から86件に減少し、休養室の利用も79件から22件に減少した。これは新型コロナウイルス感染症対策としてのオンライン授業の増加によって学生の入構自体が減ったこと、発熱風邪等の有症状者の登校自粛要請、課外活動自粛等による学内での体調不良・怪我の減少などの影響が大きいものと考えられる。一方、メンタル系の診療に関しては315件と前年度より50件増加している。項目では、問い合わせ・相談が最も多く、健康診断関連、健康診断証明書関連や予約の仕方や変更についての電話（一部メール）での問い合わせが昨年度32件から2600件と激増した。来所での問い合わせ・相談も、従来の健康相談よりも、上記内容での問い合わせが1225件（前年度288件）と非常に多かった。コロナ禍での健診日程・項目の変更、予約システムの新たな導入などの影響に加え、学生同士での口コミが機能しにくく、直接の問い合わせが増えたものと思われる。

(1) 学生利用状況一学部別

令和2年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所	メール、電話						
総合科学部	6	4	80	0	90	52	0	3	1	56	1225	2604	22	9	7	65	0	4928
医学部	3	0	28	0	31	188	0	2	5	195								
歯学部	1	1	0	0	2	30	0	0	1	31								
薬学部	1	0	1	0	2	45	0	0	8	53								
工学部	3	4	75	0	82	152	0	1	0	153								
理工学部	19	24	79	1	123	67	0	6	2	75								
生物資源産業学部	10	7	52	0	69	25	0	3	1	29								
その他	3	0	0	0	3	0	0	2	0	2								
計	46	40	315	1	402	559	0	17	18	594	1225	2604	22	9	7	65	0	4928

(2) 学生利用状況一月別

令和2年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	衛生材料	その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書	書類計	来所	メール、電話						
4月	2	2	11	0	15	43	0	4	0	47	51	110	0	0	0	0	0	223
5月	0	1	17	0	18	2	0	0	0	2	32	72	0	0	0	6	0	130
6月	10	8	27	1	46	176	0	1	1	178	65	131	5	2	1	2	0	430
7月	8	9	23	0	40	176	0	5	1	182	240	330	4	3	1	5	0	805
8月	6	2	23	0	31	27	0	0	3	30	81	95	3	0	0	4	0	244
9月	2	1	28	0	31	22	0	0	2	24	56	108	1	0	0	0	0	220
10月	7	6	35	0	48	16	0	3	0	19	116	365	3	1	0	0	0	552
11月	3	2	24	0	29	13	0	0	0	13	198	559	1	0	2	12	0	814
12月	1	5	33	0	39	19	0	1	1	21	61	122	0	0	1	8	0	252
1月	2	1	37	0	40	3	0	0	2	5	34	60	1	0	2	12	0	154
2月	2	2	26	0	30	18	0	0	0	18	35	87	0	0	0	14	0	184
3月	3	1	31	0	35	44	0	3	8	55	256	565	4	3	0	2	0	920
計	46	40	315	1	402	559	0	17	18	594	1225	2604	22	9	7	65	0	4928

(3) 職員利用状況

職員も診療の利用が内科系で減少したが、職場復帰支援の相談と、診断書や意見書の発行が増加し、全体の利用数は前年度並みであった。

利用区分	診療					相談		書類					休養室利用	急患救護	実験用採血	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	職場復帰支援	関係者コンサルテーション	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計				
令和2年度	9	5	18	5	37	51	2	0	0	0	49	49	0	0	16	155

(4) 学生・職員の健康機器利用状況

常三島保健管理部門では、ヘルスチェックルームに体組成計、身長体重計、血圧計、視力計を設置し、健康管理に役立ててもらおう目的で、来所者が自由に利用できるようにしている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大期の入構制限や計測機器の自由利用の制限のため、前年度4050件から1014件と減少した。

利用区分	令和2年度
4月	0
5月	0
6月	128
7月	483
8月	15
9月	4
10月	116
11月	34
12月	54
1月	42
2月	34
3月	104
計	1014

1 1. 蔵本地区利用状況

診療の利用は、前年度と比べ半減、休養室の利用については13件と前年度の5分の1となった。理由は常三島地区と同様と考えられる。また、蔵本地区でも、健康診断等に関する問い合わせの利用が前年度の2.8倍に増加した。

(1) 学生利用状況一学部別

学部別では薬学部の診療利用率が最も高いことは例年同様である。

令和2年度

利用区分	診療					書類				健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	その他		
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断証明書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所								メール、電話
総合科学部	0	0	0	0	0	0	8	0	0	8	59	56	0	0	0	31	2	425	733
医学部	8	10	45	2	65			6	0	6			6	1	0				
歯学部	7	6	3	0	16			0	1	1			3	0	0				
薬学部	15	9	16	0	40			3	6	9			4	1	0				
工学部	0	0	0	0	0			0	0	0			0	0	0				
理工学部	0	0	0	0	0			0	0	0			0	0	0				
生物資源産業学部	0	0	0	0	0			0	0	0			0	0	0				
その他	0	0	0	0	0			0	0	0			0	0	0				
計	30	25	64	2	121	0	8	9	7	24	59	56	13	2	0	31	2	425	733

(2) 学生利用状況一月別

令和2年度

利用区分	診療					書類					健康相談		休養室利用	急患救護	実験用採血	機器利用	衛生材料	問合せ、その他	総計
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	健康診断書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所	メール、電話							
4月	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	12	11	0	0	0	2	0	111	139
5月	1	3	3	0	7	0	0	0	0	0	9	6	1	1	0	0	0	29	53
6月	1	6	4	2	13	0	0	0	0	0	8	3	3	0	0	4	1	121	153
7月	6	6	4	0	16	0	0	4	0	4	6	5	3	0	0	5	0	10	49
8月	2	1	10	0	13	0	0	0	0	0	4	7	0	0	0	2	0	9	35
9月	1	1	7	0	9	0	0	0	0	0	2	6	0	0	0	0	0	7	24
10月	1	2	4	0	7	0	0	1	0	1	3	1	2	0	0	5	0	15	34
11月	2	1	5	0	8	0	0	2	0	2	5	5	2	0	0	1	0	24	47
12月	4	2	5	0	11	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	5	0	6	26
1月	2	1	7	0	10	0	0	0	0	0	4	5	1	0	0	2	0	8	30
2月	2	0	4	0	6	0	8	0	0	8	2	3	1	0	0	5	1	7	33
3月	8	2	8	0	18	0	0	2	7	9	2	3	0	0	0	0	0	78	110
計	30	25	64	2	121	0	8	9	7	24	59	56	13	2	0	31	2	425	733

(3) 職員利用状況

職員の利用件数は前年度に引き続き、全体的に少しずつ減少傾向である。

利用区分	診療					相談		書類				健康相談		休養室利用	急患救護	機器利用	衛生材料	問合せ、その他	総計	
	内科系	外科系	メンタル	婦人科系	診療計	職場復帰支援	関係者コンサルテーション	健康診断書	健診結果表	紹介状	診断書・意見書	書類計	来所							メール、電話
令和2年度	6	6	5	1	18	3	0	0	0	0	2	2	8	9	2	2	4	0	45	93

1 2. 学生メンタルヘルス関連

(1) こころの相談室受診状況

常三島保健管理部門および蔵本保健室の「こころの相談室」を受診した学生数を示している。令和2年度については、前年度より常三島地区の受診者数は減少したが、受診件数は増加した。受診者の診断の内訳をみると、神経症性障害、気分障害が多い傾向は例年同様で、広汎性発達障害がやや増加している。特徴として、「その他」の診断が見つからないメンタルヘルス相談が1名と、軽い相談の利用者が少なかったことが挙げられる。

		常三島	蔵本	総計
精神医学的 診断	F0 症状性・器質性精神障害	0	0	0
	F1 精神作用物質による精神障害	0	0	0
	F2 統合失調症圏	2	0	2
	F3 気分障害	13	3	16
	F4 神経症性障害	17	8	25
	F5 生理的障害	1	2	3
	F6 パーソナリティ障害	1	1	2
	F8 広汎性発達障害圏	7	2	9
	F9 小児・青年期の行動情緒障害	3	0	3
	その他	1	0	1
計(人数)		45	16	61
計(面接件数)		315	64	379

関係者のみの相談利用

学生本人の利用には至っていないが、関係者（保護者や教員）のみが学生について相談利用した数を示しており、前年度より増加している。

	常三島	蔵本	総計
関係者のみの相談(保護者・教員)(人数)	4	3	7
面接件数	6	2	8

学部別受診状況

在籍者数から見ると、総合科学部の受診率が1.7%、次いで工学部が1.3%と高くなっている。

	常三島	蔵本	総計
総合科学部	14	0	14
医学部	3	11	14
歯学部	0	2	2
薬学部	1	3	4
工学部	7	0	7
理工学部	15	0	15
生物資源産業学部	4	0	4
その他	1	0	1
計(人数)	45	16	61

(2) 新入生メンタルヘルス健診実施状況

平成 20 年度から、新入生の健診時に、自記式の質問紙によるメンタルヘルス健診を実施している。質問紙の回答の結果がカットオフを超えていた者を二次健診対象者として、面接を呼びかけて精神保健指導を行っている。

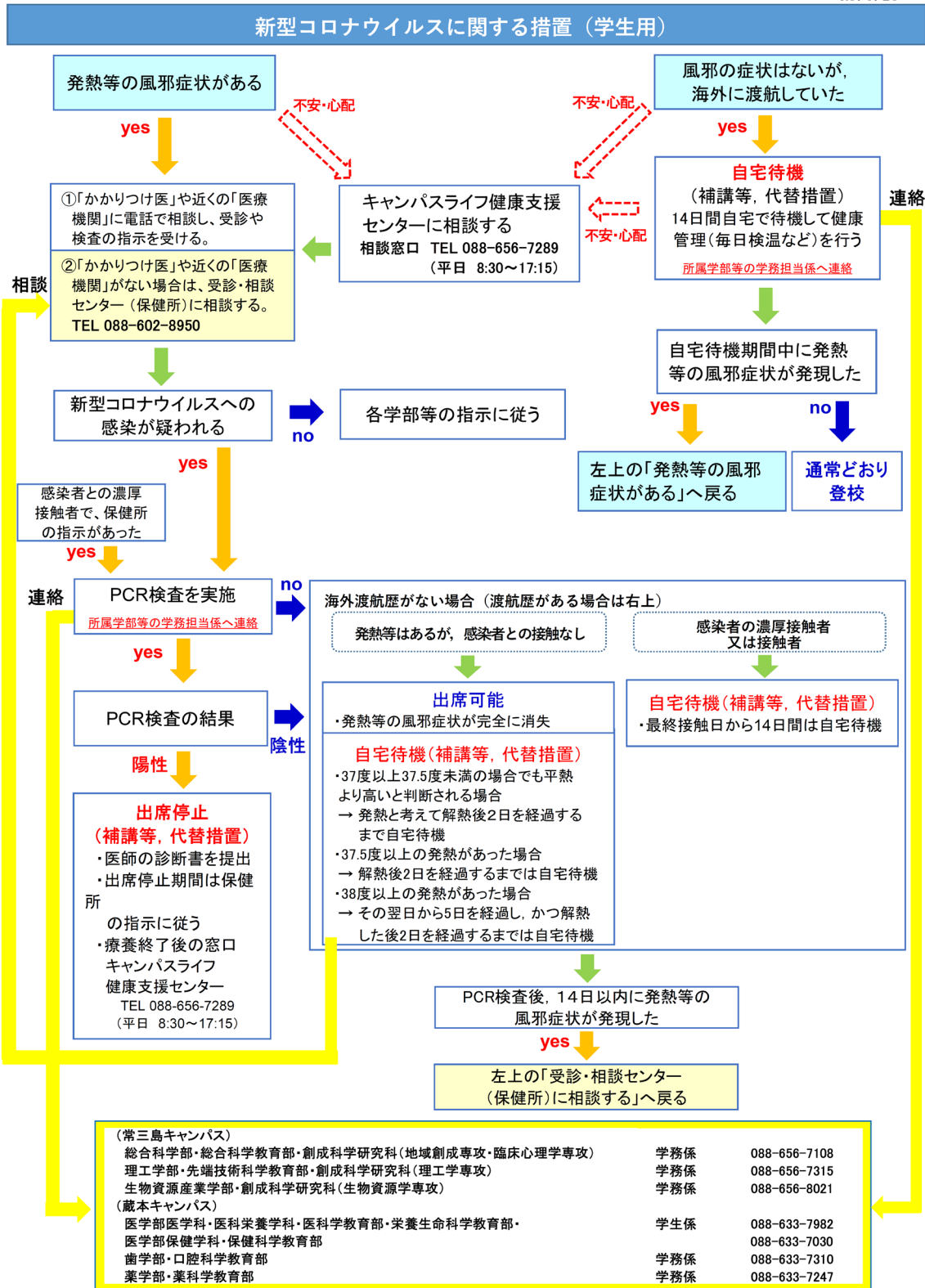
質問紙は平成 26 年度までは GHQ28 を、27 年度から UPI を使用している。UPI では 60 点満点中「総得点が 30 点を越える者」、「得点にかかわらず自殺念慮が見られる者」を二次健診対象とし、それに満たない 25 点以上の高得点者に対しては希望者に面接を呼びかけている。今年度は、原則的に二次健診対象者に対しても希望の方は面接を行うという呼びかけを試みた(例年は二次健診対象者には「希望の方は」、という文言をつけていない)。

二次健診対象者は 8.5%で例年同様あったが、面接数は過去 5 年間で最も少なくなり、二次健診対象者中の面接受診者は前年度の 35%から 8%に低下した。コロナ禍で入学を迎えた新入生にあって、潜在的な支援ニーズは高いと思われたが、呼びかけ方によって面接数が変わってくるのが改めて確認された。

	学生数	受診者数	受診率 (回収率)	平均得点	二次健診対象者		二次健診結果	
					対象者数	対象者率	面接数	要留意 学生数
令和2年度	1342	1242	93%	12.3	106	8.5%	15	8
前年度	1356	1270	94%	12.4	107	8.4%	37	15

1 3. 新型コロナウイルス感染症相談対応

R3. 6. 28



〈常三島地区〉

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
学 生	①本人の体調	対面	1	1	1	1	0	0	2	1	0	0	0	7	
		電話・メール	7	2	3	7	6	2	6	5	3	2	1	0	44
	②本人の精神心理面	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③その他の相談	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	対面	1	1	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	7
		電話・メール	8	2	3	7	6	2	6	5	3	2	1	0	45
	総計		9	3	4	8	6	2	8	6	3	2	1	0	52
	教 職 員	①本人の体調	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話・メール			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②本人の精神心理面		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
③その他の相談		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
総計		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
保 護 者		①学生の体調	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電話・メール		0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	②学生の精神心理面	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③その他の相談	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	総計		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
	総合計		12	3	4	8	6	2	9	6	3	2	1	0	56

〈蔵本地区〉

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
学 生	①本人の体調	対面	1	0	1	0	1	1	0	1	0	2	0	0	7
		電話・メール	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	②本人の精神心理面	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③その他の相談	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	対面	1	0	1	0	1	1	0	1	0	2	0	0	7
		電話・メール	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	総 計		2	0	3	0	1	1	0	1	0	2	0	0	10
	教 職 員	①本人の体調	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電話・メール			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
②本人の精神心理面		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③その他の相談		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
保 護 者		①学生の体調	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電話・メール		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	②学生の精神心理面	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	③その他の相談	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	対面	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		電話・メール	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総 計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	総合計		2	0	3	0	1	1	0	1	0	2	0	0	10

新型コロナウイルス感染症の本県における感染拡大早期には、感染者のメンタルヘルスへの影響が危惧されていたことから、当センターに対し、感染者への積極的なメンタルヘルスケアの支援を保健所や大学より求められた。感染者に対して精神科医師より主に電話による連絡支援を行った。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話	9	14	1	7	3	1	35
メール	0	1	0	0	0	1	2
その他	0	0	0	0	0	0	0
計(件数)	9	15	1	7	3	2	37

1 4 . 学生健康診断証明書発行状況

学生の健康診断証明書は、学務部に設置してある自動発行機にて発行できるようになっている。
令和 2 年度は、健康診断項目の変更により自動発行機での発行はせず、常三島保健管理部門
で発行した。

令和 2 年度

保健管理部門発行分

	総合科 学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部	理工学部	生物資源 産業学部	合計(枚)
4月	5	5	0	0	33	0	0	43
5月	0	0	0	1	1	0	0	2
6月	19	77	1	1	48	14	16	176
7月	17	69	8	2	48	24	8	176
8月	7	5	1	7	2	5	0	27
9月	0	6	3	1	8	4	0	22
10月	1	1	0	2	7	4	1	16
11月	2	1	1	1	3	5	0	13
12月	0	1	14	0	1	3	0	19
1月	0	0	0	1	1	1	0	3
2月	0	1	1	11	0	5	0	18
3月	1	22	1	18	0	2	0	44
合計	52	188	30	45	152	67	25	559

15. 年間主要行事

令和2年度

月	学 生 業 務	職 員 業 務
4	新入生定期健康診断	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(病院診療用)
	在校生定期健康診断	
5	在校生定期健康診断	放射線取り扱い者健康診断(新規)
	HBs抗原抗体検査(麻疹・風疹・水痘・ムンプスを含む) (歯1・口1・看1・3編入・薬1・助・総M1)	
	新入生精神健康調査有所見者面接	
6	在校生定期健康診断	
	1回目HBsワクチン接種 (歯1・口1・看1・3編入・薬1・助・総M1)	
	定期健康診断再検査(尿)	
	新入生精神健康調査有所見者面接	
	放射線取り扱い者健康診断(新規)	
	推薦入試救護	
	編入学試験救護	
7	大学院入試救護	
	定期健康診断有所見者追加健診	有害業務従事者健康診断(第1回)
	定期健康診断再検査(尿)	
	定期健康診断新入生胸部撮影	
	2回目HBsワクチン接種 (歯1・口1・看1・3編入・薬1・助・総M1)	
	学生精神健康調査有所見者面接	
	推薦入試救護	
	大学院入試救護	
8	推薦入試救護	特殊健診:VDT作業従事者健康診断
	大学院入試救護	
9	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(更新)	
	定期健康診断新入生胸部撮影	
	編入学試験救護	
	私費留学生・社会人入学等救護	
	第50回 中国・四国大学保健管理研究集会(香川大学) 前期業務整理	
10	定期健康診断新入生胸部撮影	有害業務従事者健康診断(第2回)
	放射線取り扱い者健康診断(新規)	
11	インフルエンザ予防接種実施(希望者)	
	3回目HBsワクチン接種 (歯1・口1・看1・3編入・薬1・助・総M1)	特殊健診:有害業務従事者健康診断(第2回)
	大学院入試救護	
	推薦入試救護	
	特殊健診:放射線取り扱い者健康診断(新規)	
	第58回 全国大学保健管理研究集会(京都大学) 一般社団法人国立大学保健管理施設協議会総会	
12	インフルエンザ予防接種実施(希望者)	
	秋季入学健康診断	特殊健診:深夜業務従事者健康診断
	定期健康診断新入生胸部撮影	
	推薦入試救護	
	大学院入試救護	
1	HBs抗体検査 (歯1・口1・看1・3編入・薬1・助・総M1)	胃がん検診(40才以上) 子宮がん検診(女子職員希望者) 大腸がん検診(希望者) 喀痰細胞診検査(希望者) がん検診判定(大腸がん・喀痰細胞診)
	大学入試共通テスト救護(第1日程・第2日程)	
	定期健康診断有所見者経過観察(尿・血圧)	
	定期健康診断新入生胸部撮影	
	前期入学試験救護	
	推薦入試救護	
2	放射線取り扱い者健康診断(更新)	
	公益社団法人全国大学保健管理協会中国四国保健看護運営委員会	
	定期健康診断新入生胸部撮影	特定保健指導
	令和3年度学生定期健康診断	定期健康診断有所見者経過観察
	大学院入試救護	
	後期入学試験救護	
	公益社団法人全国大学保健管理協会中国四国地方部会幹事会(書面審議) 全国大学保健管理協会中国四国地方部会意見交換会 本年度業務整理	

Ⅱ．総合相談部門

1．利用状況

(1) 学生相談利用状況

全体の来談者数は168人となり、前年度の180人よりも12人減少した。「修学・履修」問題の解決を求めて来談する学生の人数が増加したことから、コロナ禍におけるオンライン授業実施等の急激な修学環境変化によるストレスを抱えて悩む学生の来談が増加したことが背景にあると考えられる。

学部においては、「理工学部」と「総合科学部」の来談者が顕著に多かった。理工学部は、単に理系科目が得意であるという理由で進学してくる学生が多く、そのような学生は専門科目の修学意欲を維持することが困難になりやすい。また、総合科学部は、他学部と比べて多様な学問分野で構成されており、入学後に学びたいことや将来の進路について考える学生が多く存在している。これらの背景により両学部の利用人数が多くなったと考えられる。

大学院においては、「創成科学研究科」と「先端技術科学教育部」の来談者が多かった。令和2年4月に設置された「創成科学研究科」は、常三島地区全体の大学院であり、今後利用者が増加することが予想される。また、先端技術科学教育部は、他の教育部に比べて圧倒的に在籍人数が多いことによると考えられる（全大学院生の約3割）。

学部	修学・履修	留年・不登校	進路・就職	経済的	人間関係	精神面	健康面	人権	悪質商法	その他	合計
総合科学部	6	5	9	1	5	7				1	34
医学部	5	3	3		2	5					18
歯学部			1			1					2
薬学部	5	2			4	1	1				13
工学部	2					2					4
理工学部	8	11	5		7	2	1	3		1	38
生物資源産業学部	2	2	2			3				1	10
不明学部			1		2			2	1	1	7
学部合計	28	23	21	1	20	21	2	5	1	4	126
総合科学教育部	1							1			2
医科学教育部	2							1			3
栄養生命科学教育部	1		1			3		1			6
保健科学教育部					1	1	1				3
口腔科学教育部					2						2
薬科学教育部	3	2			2			1		1	9
先端技術科学教育部	3	1	2	1	2	1		1		1	12
大学院合計	8	4	4	1	8	8	1	5	0	3	42
合計	36	27	25	2	28	29	3	10	1	7	168

(2) 相談内容別職員相談利用状況

全体の来談者数は23人であり、昨年度の38人より15人減少した。所属別で見ると、「その他」と「医学部」の来談者が最も多かった。相談内容別で見ると、「人間関係の問題」と「人権」問題の解決を求めて来談する教職員が最も多かった。この傾向は昨年度と変わらない。昨年度と変わらず、職場の対人的環境で悩む教職員の利用ニーズが高かったと考えられる。

学部	人間関係	就労環境	雇用条件	職業将来設計	人権	精神面	自分の生活等	家族	その他	合計
総合科学部	1				1					2
医学部	2	1				1				4
歯学部	2									2
薬学部					1					1
理工学部		2			1	1				4
病院	1	1		1	2	1			3	9
共同教育研究施設	1					1			1	3
事務局					4	1				5
その他	4					1			2	7
不明	1	1								2
合計	12	5	0	1	9	6	0	0	6	39

2. 活動報告

令和2年度

月	対象者	行事	内容
4	学生・教職員・保護者	「キャンパスライフ健康支援センター利用案内」発行	キャンパスライフ健康支援センターの利用案内及び活動内容を周知、保護者宛て徳大広報「とくtalk」2020春号に同封
		新入生（理工学部）オリエンテーション	新入生を対象のオリエンテーション（学生時代の悩み・総合相談部門の紹介）をリモートによる実施（井ノ崎専任教員）
		新入生（総合科学部）オリエンテーション	新入生を対象のオリエンテーション（学生時代の悩み・総合相談部門の紹介）をリモートによる実施（井ノ崎専任教員）
		新入生（薬学部）オリエンテーション	新入生対象の入門講座（学生時代の悩みと総合相談部門の紹介）を実施（中村専任教員，後藤専任教員）
	新入生・学生	マルチ商法及びカルト問題の注意喚起のリーフレットを作成・配布	新入生に配布する悪質商法及びカルト問題の注意喚起のリーフレットを作成し、配布
	教職員	新任教職員研修会	「人権問題」についてリモートによる実施（井ノ崎専任教員）
		病院新規採用者オリエンテーション	「人権問題」についてリモートによる実施（中村専任教員）
5	*新型コロナウイルス感染拡大のため、全国に緊急事態宣言が発令され、予定されていた活動は中止となった。		
6	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施〔常三島地区2回〕（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
	専任教員	小寺記念精神分析研究財団自我心理学セミナー2020（ハイブリッド開催）	後藤専任教員参加
7	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施〔常三島地区2回〕（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
8	専任教員	日本学生相談学会第51回学生相談セミナー（オンライン開催）	井ノ崎専任教員参加
		日本行動分析学会第38回年次大会（オンライン開催）	中村専任教員参加
9	専任教員	日本心理学会第84回大会（オンライン開催）	井ノ崎専任教員参加
		対人援助職のための「ACTをはじめ」～当事者研究的にACTをまなぶ（オンライン開催）	中村専任教員参加
		2020年度心のケアに携わる人の認知行動療法のスキルアップ研修（オンライン開催）	中村専任教員参加
		2020年度第19回日本トラウマティック・ストレス学会（オンライン開催）	中村専任教員参加
		令和2年度第4回ピアメディエーション学会国際大会（オンライン開催）	中村専任教員参加
10	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施〔常三島地区1回〕（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
	専任教員	2020年度うつと不安への認知行動療法の統一プロトコル：エッセンシャル入門研修（オンライン開催）	中村専任教員参加
		認知療法・認知行動療法カウンセリング第1回初級オンラインワークショップ	中村専任教員参加
		令和2年度心の問題と成長支援ワークショップ（オンライン開催）	後藤専任教員参加
11	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施〔常三島地区1回〕（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
	専任教員	2020年度周産期メンタルヘルスの認知行動療法研修-認知行動療法に学ぶ対話スキルと周産期メンタルヘルス（オンライン開催）	中村専任教員参加
		認知療法・認知行動療法カウンセリング第1回CBTの導入・ケースフォーミュレーションオンラインワークショップ	中村専任教員参加
		第58回全国学生相談研修会（オンライン開催）	井ノ崎専任教員参加
		2020年度KIPP対人関係精神分析セミナー第4回「精神的ジェンダー論への序章-ジェシカ・ベンジャミンを中心に」（オンライン開催）	後藤専任教員参加

12	学生	「ほっと」の会	学生対象のグループ活動を実施（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ほっとカフェ	学生同士の交流を深める茶話会を実施〔常三島地区1回〕（井ノ崎専任教員，後藤専任教員）
		ゆる〜くやるミニコミュニケーション講座	学生対象のグループ活動を実施（中村専任教員）
	専任教員	2020年度KIPP対人関係精神分析セミナー第5回「精神分析的治療関係のはじまりと展開」（オンライン開催）	後藤専任教員参加
		令和2年度障害学生支援実務者育成研修会（オンライン開催）	井ノ崎専任教員参加
1	学生	ゆる〜くやるミニコミュニケーション講座	学生対象のグループ活動を実施（中村専任教員）
	学生・教職員・保護者	徳大広報「とくTalk」2020冬号掲載	ヘルスケア（後藤専任教員）
	専任教員	「メンタライジングによる子どもと親への支援：時間制限式MBT-Cへのガイド」刊行記念オンラインセミナー-『外傷的育ち』の子どものアセスメントと支援-（オンライン開催）	後藤専任教員参加
		認知療法・認知行動療法カウンセリング第1回問題解決法オンラインワークショップ	中村専任教員参加
		国際自己心理学会2020オンライン大会（環太平洋大会）	後藤専任教員参加
2	専任教員	4th Annual Creating Trauma-Sensitive Schools Conference（オンライン開催）	中村専任教員参加
3	専任教員	2020年度精神分析研究会・神戸オープンセミナー（オンライン開催）	後藤専任教員参加

※総合相談部門開室日
月～金 8：30～17：15

※総合相談部門閉室日
夏季一斉休業（R2.8.12～R2.8.14）
冬季一斉休業（R2.12.29～R3.1.3）

Ⅲ. アクセシビリティ支援部門

1. 利用状況

(1) 学生相談利用状況

学部別で見ると、相談人数・面談回数ともに「理工学部」が最も多く、次いで「総合科学部」が多かった。また、障害種別で見ると、「発達障害」が最も多く相談件数の約79%を占めていた。アクセシビリティ支援部門での相談件数は年々増加傾向にある。担当教員による定期的な面談を実施し、それぞれの学生の障害に起因する困難について、合理的配慮がなされるよう関係学部・関係部署・医療機関等と調整を行った。

■学部別

学 部	人 数	面談件数
総合科学部	9	36
理工学部・工学部	14	120
生物資源産業学部	2	22
医学部	2	18
歯学部	1	6
薬学部	2	13
その他(教員含む)	0	0
計	30	215

■障害種別

障害の内容	人 数	面接件数
視覚障害	0	0
聴覚・言語障害	0	0
肢体不自由	1	8
病弱・虚弱（内部障害等）	0	0
重 複	0	0
発達障害	23	169
精神障害	6	38
その他の障害	0	0
計	30	215

(2) 支援学生の育成

これまで、障がいをもつ学生を支援する支援学生（ピアサポーター）を育成するため、定期的にアクセシビリティ研究会を開催し、支援のための知識や方法の修得を促していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。

また、平成28年度より、本学はアクセシビリティリーダー育成協議会に入会し、アクセシビリティリーダー1級及び2級の取得が可能となった。令和2年度には、累計で本学の1級取得者が9名（うち1名は試験に合格したが、認定要件を満たさなかったため未認定）、2級取得者は39名となっている。

2. 活動報告

令和2年度

月	対象者	行事	備考
4	学生	新入生（理工学部）オリエンテーション	
		新入生（総合科学部）オリエンテーション	
		新入生（生物資源産業学部）オリエンテーション	
7	学生	アクセシビリティリーダーオンライン講座受講 申込受付	アカウント配布 21名
8	学生	アクセシビリティリーダーオンライン講座・開講	
	学生	AL サマーキャンプ申込受付	学生2名申込
	学生	アクセシビリティリーダー1級・2級受験申込	1級1名, 2級11名申込
9	学生	AL サマーキャンプ	学生2名参加
12	学生	アクセシビリティリーダー1級・2級試験受験	
1	学生	アクセシビリティリーダー1級・2級合格者発表	1級1名(未認定), 2級6名合格
	学生	AL キャンプ申込受付	学生申込者なし
3	学生	AL 春キャンプ（オンライン）	学生参加者なし

IV. キャンパスライフ健康支援センター活動報告

月	業務
6	第1回メンタルヘルスマーケティング
	第1回キャンパスライフ健康支援センター会議
7	第2回キャンパスライフ健康支援センター会議
9	第1回キャンパスライフ健康支援センター運営委員会
	第2回メンタルヘルスマーケティング
	第3回キャンパスライフ健康支援センター会議
	第2回キャンパスライフ健康支援センター運営委員会（メール開催）
10	第4回キャンパスライフ健康支援センター会議
12	第3回メンタルヘルスマーケティング
	第5回キャンパスライフ健康支援センター会議
	第3回キャンパスライフ健康支援センター運営委員会
1	第6回キャンパスライフ健康支援センター会議
3	第4回メンタルヘルスマーケティング
	第7回キャンパスライフ健康支援センター会議

巻末言

キャンパスライフ健康支援センターは、保健管理・総合相談センターと特別修学支援室を改組して令和元年度（2019年4月）に設置されました。すなわち、保健管理・医療を担当する保健管理部門（保健管理センター）、相談・心理支援を担当する総合相談部門（総合相談室）、障害などのため修学に困難をもつ学生の修学支援を行うアクセシビリティ支援部門（アクセシビリティ支援室）の3部門からなるセンターです。

令和2年4月には、総合相談部門に後藤龍太先生、令和3年3月に保健管理部門に曾我部正弘先生が着任されております。

令和二年度から現在に至るまでは、新型コロナウイルス感染症を考慮しながらの活動となりました。どの部門も、対面での活動を基本としていましたが、感染予防のため、遠隔による面接を取り入れての活動となりました。

全国的に見た場合、他の地域と比べると、徳島県の感染者数は少なく、遠隔での授業や支援などの実施の期間は短い方かもしれません。しかし、総合相談部門長として、その状況を考えると、やはり新型コロナ感染症による影響があると言わざるを得ません。遠隔による授業や支援に一定の効用もありますが、大学は、本来的に、対面による学び、交流、成長の場であり、遠隔が長く続く状況は、メンタルヘルスに影響があるように思われます。

年報の様々な記録は、各部門の活動の記録であるとともに、このコロナ禍における徳島大学の学生・職員に対する心身の健康支援および学生に対する修学支援の取り組みの現状を表しています。ご一読頂き、ご意見を頂ければ幸いです。

令和3年9月
総合相談部門長 佐藤健二

令和2年度 キャンパスライフ健康支援センター年報

発行日 2021年9月

編集・発行 徳島大学キャンパスライフ健康支援センター
〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地